

核データ情報評価専門部会
45年度第2回会合議事録

日 時 昭和45年12月17日 11:25~17:10

場 所 日本原子力研究所東海研究所 図書館セミナー室

出席者 五十嵐 信一(原研), 飯島 俊吾(NAIG)

大竹 厳(富士), 川合 将義(NAIG),

神田 幸則(九大), 後藤 賴男(原研),

坂本 正誠(原研), 末広 忠輔(東大),

菅原 彰(MAPI), 中川 庸雄(原研),

中島 竜三(法大), 中村 久(富士),

西村 和明(原研), 八谷 雅典(三井造船)

更田 豊治郎(原研), 松延 広幸(住友),

山越 寿夫(船研), 早瀬 祐一(東電, オブザーバー)

(五十音順)

配布資料 なし

議事(議長…更田)

1. 一般報告(西村)

(1) 本委員会

5月15日, 8月28日および11月27日の本委員会における討議内容が報告された。

(2) 旅費

12月1日現在, 残が約12万円である。各W.G.の会合は一回位しか行えない。

(3) 第3回中性子断面積研究会は今年度内には開けない。

(4) 東京電力からW.G.に入りたいという希望があり, 当会合に早瀬氏がオブザーバーとして出席している。

(5) 「核データ管理室(センター)の将来計画(案)の説明

2. 各W.G.の報告

(1) 热中性子散乱(後藤)

- 経過 …… 廉材料に対して行つてきた計算の最終的な結果をレポートにした。文献調査は、文献を計算コードに乗せる作業をした。また熱中性子データの評価のために、文献の内容の検討、紹介をW.G内で行つてきた。
- 今後の予定 …… 文献調査を中心に作業をしていき、計算活動の新しい方向をみつけるよう努力していく。網羅的なファイル作りはやらない。今までの結果や計算コードは、核データセンター（研究室）に渡さず。なお外部の人が、原研の FACOM を使えるよう旅費を都合して欲しい。
- その他 …… 核データ・センターの業務内容を明確にして欲しい。
ファイルとはなにか？ファイルの定義を明確にして欲しい。ENDF / B 程度のファイルなら作る必要がないのではないか。ファイルに入れたデータについては、必ず document をつけるべきだ。核データセンターで、計算コードの管理をして欲しい。

(ロ) データ検索システム(更田)

- 経過 …… CODN の NEUDADA を PL/I から FORTRAN IV に書き換える作業を IBM 外注し、9割位終了した。核データ研究室で持つべきコンピューターの調査を行つた。
- 今後の予定 …… NEUDADA を原研に引きとり、使う。コンピュータの調査報告を今年度中に出す。CCDN の岡本氏から話しのあつた COMFORD の件（第3回シグマ研究専門委員会議事録参照）はまだ明確でない。

(ハ) Fast F.P(飯島)

- 経過および今後の予定

以下の作業を行つて来た。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{Decay chain の決定 } (\beta-\text{decay chain}) \\ \text{核種の選定 (Benz i (142) + 35)} \\ \text{yield (U}^{235}, \text{U}^{238}, \text{Pu}^{239}, \text{Pu}^{240}) \\ \text{decay constants} \\ \sigma c \\ \sigma_{el}, \sigma_{inel}, \sigma_{tot} \dots \text{光学模型パラメーターを} \sigma_{tot} \text{でサーチし,} \\ \text{これらの値を計算する。} \end{array} \right.$

なお重要核種については、炉定数専門部会のFast F.P., WG から recommendation があるはずである。

(=) Standard (中島)

○ 経過および今後の予定

$\text{Li}^6(n, \alpha)$ に食い違いがあり、問題になつてゐる。 $\text{B}^{10}(n, \alpha)$ $\text{Li}^6(n, \alpha)$ をCCDN の岡本氏にやつてもらうことになるかもしれない。

(+) 重い核(五十嵐)

○ 経過 … 対象とした核種の fission, capture total, γ のデータで BNL-325 以後のものを調査している。

○ 今後の予定 … ヘルシンキ会議のデータも含めて、来年3月までにレポートを作成する。

(+) 弹性, 非弾性(五十嵐)

○ 経過 … 対象核種のデータを整理し、P_u, Uについてレポートを作成した (JAERI-memo 4160)。

今後の予定 … 来年3月までに残りの中重核のレポートを作成する。信頼できるデータをみつけ出し、計算値と比較して、一本の線を出していく。

(+) (n, γ) (西村)

○ 経過 … Cr, Fe, Ni, Mo の結果をヘルシンキ会議で報告した。この他 $\text{Na}, \text{O}, \text{Ta}$ を追加したが作業が進んでいない。

3. 来年度計画

来年度のW.Gの構成について、次のような案が飯島委員からあつた。

○ 飯島委員案

(1) 現在の「核データ情報専門部会」と「核データ評価専門部会」を統一し、部会長を五十嵐委員にする。

(2) 現在ある7つのW.Gを次のようにする。

(現在)

(案)

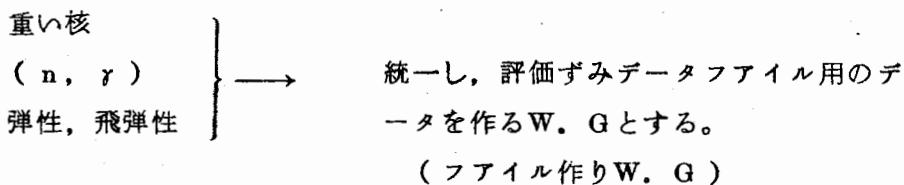
熱中性子散乱 → 現在のまま残す

データ検索システム → "

Fast F.P. → "

Standard → W.Gからはずし、核データ研究室が中

心になつて作業をしていく。



(3) グループ連絡会議を作る。

構成メンバー

熱中性子散乱	後 藤
データ検索システム	更 田
Fast E. P.	飯 島
ファイル作りW. G	松 延
核データ研究室	西 村
その 他	数 名

この案を検討した結果,

- (1) ICについては、承認され、専門部会の名称は「核データ専門部会」とすることにした。
- (2) ICについては、大枠では承認されたが、統一される3つのW. G. 内でさらに検討することになった。
- (3) ICについては、とりあえず、現W. G. の担当者と、研究室の数人で構成することにした。

本委員会に提出する案は五十嵐、飯島両委員がまとめ、その後の話し合いはグループ連絡会議で行うこととした。

4. 予算関係

46年度実行予算を各W. Gで検討し、核データ研究室に連絡することになった。また(n, γ)で行うNa, O, Taの作業の際の旅費のとり方については、シールド関係の人がプランを考え、五十嵐、飯島両委員に連絡することになった。

5. その他

グループ連絡会議を1月下旬に行う。

一以 上一